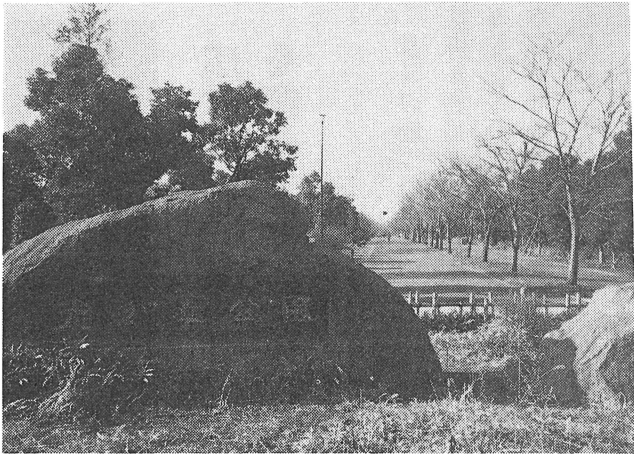




ゆり北

第84号 (8期第11号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話 03 (3938) 9181番

発行責任者 吉 柳 俊 孝

第九回自治会総会取組みと 過去の総会Q&A紹介

私たちの「ゆりの木北団地」も、八年になります。光が丘パークタウンも今年で住宅造りは終りのようです。過ぎ去れば「短かった八年だった」と感じます。

去年は、団地を引っ越して去る人、来る人の多い年でした。さびしい思

いや、新しい隣人を迎えての総会になります。四月は地方選挙があり、会場の小学校も忙がしいようです。例年は、四月の後半ですが、五月初めに自治会総会を行います。これから約一ヶ月が準備で忙がしくなります。役員選挙の選挙管理委員の人た

第七期 (一九八九年度) のQ & A

- Q 駐車場の対策に対する具体案は、
A 周辺の駐車場が年々減っている。賃貸は、公団交渉で取りあげているがコスト面で難色を呈している。分譲は、管理組合への提案になるが、新聞討論でも1/2位の慎重論があり、住民相互の理解を深めたい。
- Q 新しい団地で二階式を導入しているが、コストなど調査を。
A いちよう通り団地での取り組みなどを研究したい。
- Q IMAに行くバス路線を。
A 今まで三〇一、三〇二の総量規制を求めて来た。地下鉄開通などの新しい局面もあり、総合的に考えて行きたい。
- Q 夜警の連絡体制が不備だったが指摘のとおり、役員でも不徹底であった。早めに体制を作る。今後自治会委員等の協力をお願いする。
- Q 広報費や事務費は、決算に比べて少ないのではないか。
A 前年は、五周年など特別な要素もあった。不足する状況になれば補正予算を考える。
- Q 特別会計の扱い、広報と総会提案では違っているが。
A 前年度でも積み立てたいと考えていたが、決算の結果難しかった。今回、修正して提案したのでご了承願いたい。
- Q 会費の管理が不十分、集金に行ったら振込になっていないなど。
A 領収書の改善を今年度行う。また銀行と協議して、振り込み情報を速く振込で連絡する。
- Q 会計担当は二名にした方がよい。
A 幹事の任務分担で配置する。
- Q 消費税や家賃などの具体的な取り組みは、
A 二十三区自治協からは署名運動や集会参加の要請が来ている。学習会も計画したい。
- Q 役員活動費は、その中味から見ても事務費でよい。この金額(役員月五百円)では、「活動費」をもらっているといえない。電話代などの実費弁償ではないか。
A 事務費の扱いに修正する。
- Q 公園駐車場への対応はどうなったのか。
A 当初、自治会では分散配置を要求してきた。都は当初案を基本的には変えていない。ゆり北前の広場は、現状の「誰でも使える原っぱ」として残すことを、自治会案として対処してゆく。
- この他、ゆりの木学童保育クラブが定員70名に増員の報告があった。

第八期 (1990年度) のQ & A

- Q 決算は科目の内訳毎に整理すべきだ。予算に対してオーバーしているものがあるので管理をきちんと。会費集金者から会計に渡す際の受領書の対策を。
A 次回から内訳別に決算したい。予算に対しては適正管理をして行く。最終段階での会計からの領収書については検討する。
- Q 清掃工場からダイオキシンが発生しているという報道があった。光連協の対応は。
A 記事の内容は正確ではなく、現時点でダイオキシンは出ていない。光連協としては、測定地点を増やして測定するよう要望を出している。
- Q カーペットからフローリングの変更で騒音等の問題が発生しているのではないか。
A 遮音効果の高い仕様で模様替基準を決めることが必要だ。管理組合で音頭をとる必要があるだろう。
- Q 三〇一線沿いの大気汚染の状況は。
A 環境基準の数値はすれすれだ。再調査を要望して行きたい。
- Q 共有部分の廊下等に自転車置き場を置く人がいる。モラルの向上を図るよう取り組んでほしい。
- Q 犬の予防接種のお知らせを掲示したが矛盾を感じた。区広報の取り扱い。
A 取捨選択をしながら掲示して行きたい。
- Q 以上は活動報告等について——
A 光が丘公園内に建設される図書館をゆり北住民も利用できるようにしてほしい。
- Q 練馬・板橋の区民が相互に利用できるようになっていく。
Q ペランダの手摺が黒くなる等大気汚染、排気ガスがひどい、又、樹木の名称がなくなっているので設置してもらいたい。
A 大型トラックの排ガスが一号棟に入ってくる。違法駐車対策を。A 関連の区及び高島警察に要請する。樹木等の名称については、公団と管理組合に申し入れる。
- Q 「駐車場・駐輪場の拡充を要求します」とあるが、分譲の場合には管理組合の総会決定事項であり、自治会の意向だけでは決められない問題だ。方針を修正されたい。
A 指摘のとおりなので原案を一部修正する。
- Q 赤塚・田柄団地が分譲から賃貸に変わった理由。
A 賃貸住宅の供給が必要であり、公団の事業用地の確保が難しくなっている時期なので賃貸住宅にしたとの説明があった。
- Q 公団家賃の一斉値上げの対象となる時期も近いので家賃システムの学習会を開いてほしい。

—恒例のお花見会に参加しませんか—

日 時 : 4月7日 (日曜日)

場 所 : 光が丘公園内 (詳細は別途連絡します。)

＜おおいに親睦を深めたいと考えていますので、皆様の参加を期待しております。＞

A 二十三区自治協の協力を得て実施する。

Q のびのび子供会 (ゆりの木学童クラブのOBを中心にした子供会) で夏祭りに参加し子供達もすばらしい体験が出来た。これからは自治会と協力や共済の形で様々な活動が出来ようをお願いする。

Q 会員名簿の作成は全員配布を考えてのことか。名簿の悪用、迷惑行為等のプライバシー問題もあるので検討してほしい。

A 会員名簿は自治会の運営上必要なもので作成するが、配布については予算上も計上されていないし、指摘の事もあるので慎重に扱いたい。

方針案からは削除する。

広報部での三年間
を顧みて

もといてみても、なかなか苦勞の跡がうかがえます。例えば、「ゆり北」は両面とも六段構成となっており、その上下三段ずつが完全に分離されるように編集されると、それを“腹切り”と呼び編集のまずさを表しています。たしかにその頃の「ゆり北」

二年目は慣れてきたことと、「バー
ドウォチング」「マンガゆりっぺさ
ん」「新聞討論」等のように連載記
事が定着してきた時期で、一番編集
するのが楽しい時期でした。

三年目はマンネリに陥らないように色々な企画をし苦心した年です。

三年目とは今年のことなので、詳細を説明する必要はないと思います。

以上のように編集については素人でしたが、毎月一回以上を発行するという自分に対するノルマが私を支

した。「会報ゆり北」を担当して、早くも三年の歳月が過ぎ去りました。長くて短かったような気がします。

編集会議の時は、夕餉の支度もそこに、八時半から十二時頃まで、一気に二面（又は四面）を作りあげて、翌日は、飯田橋の印刷所へと急ぎました。その時の忙しさノもう二

えてくれたことと、良きパートナーに恵まれたことです。

今後とも「ゆり北」は発行され続けますが、「ゆり北」の最大の目的は紙面を通して会員相互の理解を深め、認識の共有化を推進することだと考えます。そのためには、一人でも多くの人が積極的に「ゆり北」に投稿することです。自分の意見を皆に聞いてもらうことが大切であると考えます。

木が歩いたら、おかしいですね。
「おばけだ。」みんなおどろいて、
にげるでしょうか。

私は一度、自分が歩けた夢をみたことがあるのです。私が歩いていみると、子どもたちが私をみつけて、「うわあい。うわあい。木が歩いている。おもしろいぞ。さ、のぼってあそぼう。」

子どもたちは、私の枝にまたがり、ぶら下がったりして、

「木のお馬だ。木のオープンカーだ。」

「おお。はい、はい。」

もう、大よろこびです。私も、うれしくなって、スピードをあげたり、

わざと体をゆすったりしました。ぐるっとひとまわりすると、子どもたち、

「ウワッ、こわい。おっこちるウ。」
「平気。平気。もつとまわれ、もつとまわれ、メリーゴーランド。」

大変なにぎわいになりました。

ところが、とつぜん、大人の二団

か現れ、私をかこんだのです。そし

こわい顔で私をにらみ

「木のにはいものた　　にはいものた」

一木の怪ふた　子ともたぢかづか

「ふふふ。はっ。こすの。」

とさけびながら、私にちかづいてき

C・ある事象があり、そこに社会現象として考察できる面……つまりこんなことだけ取り上げて騒ぐのはけしからんとかいうふうなところ、あるいは反対に人々が超能力なるものには何かある種の日常を超えたものを求めてしまう、そんな心情的なものを追求する側面と、超能力それ自体について見ていく面とふたつあるように思う。社会現象として愉快かどうかというのと、超能力が本当に存

去る三月十五日、ゆり北集会所に

て結成集会を行いました。総勢六名と少ない人数でしたが、各自のパソコン歴、お気に入りのソフトの話、と盛り上がり、予定の二時間を三十分も過ぎてしまいました。次はパソコンを実際に触りながら第二回の会

合を五月頃に予定しています。

連絡先	十一号棟二〇八号
代表	加賀谷 宏
電話	(三九九七七) 三七五三
事務局	十三号棟九〇三号
越沼 環	
電話	(三九九七七) 三八四四

十四—四〇九 堤 達

来年度は、一層強力なメンバーの参加を期待し、反省の弁とします。

こんな意見が
寄せられました！

の箱（集積所）の何杯分も、そのまま捨てられてしまふのを見るにつけかえすがえすも残念な気がいたしました。催しというとは大げさですが、落

葉でたき火をして、焼芋をしながら談笑するといった光景は、もう歌の

中だけで過去のものになったのでしょ

うか。最近は人情が薄くなったと言

うか知らない人同士ではあいさつ

さえしなくなっています。大層に老

えずに、自然に近い形で、焼芋の会

とかができたらなあとおくづく感じる昨今です。

編集後記



今期の「ゆり北」発行も本号をもつて終了となります。毎月発行して最低十二回と、後で考えると少ないように感じますが、その過程では大変繁忙を極め、発行したかと思うとすぐ一ヶ月が過ぎてしまい、また発行という連続です。しかし、新聞活動は一つの歴史を形成できるため、何年か前のものを読んでみると大変懐かしい思いを味わい、一人ふくみ笑いなどしたりして・・・。

そのためにも皆様方が、その歴史を残していかなければならないわけです。そう言えば御理解頂けると思いますが、来期も積極的に投稿して下さい。よろしくお願いします。

